

会誌

第 29 号

平成元年 3 月

29

卷頭言	本多啓七
研究発表	
1. 巨木の所在とその特性	本多啓七 1
2. 富山県のトリカブト属標本	太田道人 39
3. 二上山に見られるブナ林について	佐藤卓 47
4. イノデータブノキ群集の北限地域をたずねて	本瀬晴雄 53
5. キツリフネの自花品について	本瀬薫 55
6. 黒部峡谷祖母谷周辺における ノリウツギに訪花した昆虫	田中忠次 56
7. 白岩川山地溪流の水生昆虫	川添憲三 58
8. 音に反応して鳴くすずめ (Passer montanus)	大田保文 64
本会記事	72
編集後記	73

富山県生物学会

巻 頭 言

会長 本多啓七

今回、凶らずも、伝統ある富山県生物学会の会長となり、この学会の歩みには、全責任を背負う宿命に立ったことに対し、誠に感無量のものがあります

本会は古い歴史をもった地方の学会であるが故に、過去における世相の激動期にあっては、この学会の存亡の危機に立ったことが幾多ありました。そのたびにこの伝統ある生物科学研究の“法燈”を消してはならぬという会員各位の叫びによって、今日まで持続してきたことを有難く思っています。

いまさら申し上げるまでもなく、近代生物学の発展は目ざましいものがあります。それはとりもなおさず世界人類の安住と福祉につながるものであり、地球上のほとんど全ての生物の生活、広い意味での生態学的な環境の中での共存を意味するものでなくてはなりません。今日ほど生物学の重要性を担っている時代はありません。その意味で、地域に密着した本会は、中央の学会と異った研究使命があります。また本学会は創設以来、生物の各方面で幾多の業績をあげてきました。このことは、対外的にも大きな誇りであり、また、対内的には会員各位への大きな励ましであると考えられます。

その意味において、今回、本会誌第29号の発刊を祝福すると共に会員各位の研究活動がいつそう発展していくことをご期待申し上げます。なお本学会に対し、格段のご協力の程を切にお願い申し上げます。